

平成 29 年度 研究計画書

Research Plan FY2017

| | |
|----------------------------------|--------------------|
| 講座名・職名 Course Title・Job Title | ヨーロッパ・アメリカ I 講座・教授 |
| 氏名 Name | 渡邊 克昭 |
| 専門分野 Academic Field | アメリカ文学・文化 |

平成 29 年度 研究計画 (ホームページで公開) Research Plan FY2017 (Post on Website)

| | | | | | |
|--|---|---------|-------|------|------|
| 主たる研究テーマ Principal Research Subject | アメリカ文学におけるヒューマン・エンハンスメントの進化と「幸福の追求」の未来学 | | | | |
| 研究計画 (400 字～500 字で記入すること。) Research Plan (Approximately 100 Words) 近年、再生医療、遺伝子治療、バイオテクノロジー、脳神経科学などの先端科学技術の利用をめぐって、喫緊の課題としてエンハンスメントをめぐる問題系が浮上してきた。ヒューマン・エンハンスメントとは、人工器官など医学的な方法によって治療目的以上に運動能力を増強したり、薬物や遺伝子操作を通じて記憶力や認知能力を高めたり、さらには情動耐性や幸福感の現出や共感力の強化といった、人間の主体の根幹に関わることまでもがその射程に入ってくる。生殖、教育、医療、身体を巻き込んだ人類史上類を見ないパラダイム転換点に、ポストモダン・アメリカ文学はいかに向き合おうとしているのか。本研究は、これまでヒューマン・エンハンスメントが惹起する多様な言説と情動のインターフェイスを、ネオリベラリズムの「幸福の追求」の政治学との関係において分析し、「文化としてテクノロジー」のあるべき姿を炙り出そうとしてきた。最終年度に当たる本年は、人類の進化の極限に明滅する絶滅の危機と、地質学的な無底の時間をめぐる惑星的想像力を視野に入れ、本テーマの彼方に浮上するポストヒューマンをめぐる問題系を中心に、身体器官、無機物、大地、アートが織りなす関係を手がかりに、21世紀アメリカ小説の特質を総括し、本研究の意義を明らかにしたい。 | | | | | |
| 共同研究可能な分野 Research Fields feasible for joint research *1 | 英米・英語圏 文学 | ヨーロッパ文学 | 思想史 | 文学一般 | 芸術一般 |
| キーワード Keywords*2 | ヒューマン・エン ハンスメント | アメリカ文学 | 幸福の追求 | 進化 | 死 |